

平成 23 年度
第 2 回 長岡市図書館協議会

日 時 平成 24 年 2 月 14 日 (火) 午後 2 時から午後 4 時まで
場 所 中央図書館 2 階 講座室 1

会議出席者 委 員 : 渡邊委員長 淵本副委員長 恩田委員 熊倉委員 谷委員 中
村委員 畠野委員 松本委員 湯本委員

(欠席: 山岸委員)

事務局 : 小倉館長 廣田補佐 岩渕庶務係長 松矢奉仕係長 石井文書
資料室長 指定管理者荒井業務統括責任者 同高橋業務統括
チーフ 同渡辺業務統括チーフ

1 開 会

2 教育部長あいさつ

3 議 事

(1) 報告事項

- ① 平成 23 年度重点事項の取組状況について
- ② 「新潟県おもいやり駐車場制度」について

(2) 協議事項

- ① 平成 24 年度の運営方針 (案) について
- ② 平成 24 年度の主な事業計画 (案) について
- ③ 長岡市立図書館の活動評価について
- ④ 特別図書整理の状況と課題について

4 閉 会

5 会議録要旨

○運営方針案にある課題解決とは何を意味しているのか。利用者個々が持っている課題解決という意味なのか、別の読み方があるのか。指定管理者制度が導入されている地域図書館もこの重点事項を踏まえて事業展開していくということによいか。

⇒さまざまな角度からの質問に的確に資料を紹介する。レファレンスを受けるものとして迅速に正確に支流を提供するための資質を高めるという意味で挙げている。

○施設設備の老朽化に伴う改修について具体的な内容を伺いたい。24 年度に改修計画を策定するのか、既に計画があつての予算付けか。また、市民・利用者の声は反映されるか。

⇒近年、大規模な故障や機能低下が生じているため、実態に合わせた計画を策定したい。

24年度については緊急的なものについて改修を行う。

○美術センター自主企画展で「ダウン症の書家金澤翔子展」で本人やお母さんが来て講演をするというような計画はあるか。

⇒具体的にはこれからの交渉のなかで決めていく。

○子ども読書活動推進計画については粛々と進めてほしい。資料の充実について特定分野を充実させようという考えはあるか。

⇒郷土資料のデータ整備である。

○新潟県立歴史博物館と連携して講座等を行うのはよいことであるが、資料調査・保存・収集の面で24年度の柱となるものはどのようなところか。

⇒県等から働きかけがあれば県と一緒に。市独自とすれば越路・与板地域を対象に行いたい。

○大改修について聞きたい。昨年は、3.11 東日本大震災や水害を経て公共施設を使ってくださいというキャンペーンが実施されたが、それらにきちんと応えるためにもきちんとした環境を整えてほしい。駐車場の確保も重要である。降雪時の駐車場確保も考えてほしい。

⇒中央図書館だけでなく、地域図書館も視野に入れて改修を進めていかなければならない。互尊文庫は、耐震診断で厳しい判定がくだされたが、今後の互尊文庫のビジョンを示していかないと改修を進める方向には動きにくい。

○旧大和・商工会議所のある大手通・表町地区の再開発を考えていくときに、旧立川病院や互尊文庫・明治公園が絡んでくる。互尊文庫だけを論じるのではなくリンクした形で考える必要がある。

○ハードとして図書館（互尊文庫）がある以上は、それを存続すると考えなければならぬ。図書館を閉めて文書資料室の資料保存機能を高めることも考えられる。市民に対して観光客に対しても重要なものであるので、どういう形で残していくのかは、市全体の課題となると思う。

○安全性の話でいえば応急措置を行い、中期的には再開発のなかに入れるということになるだろう。

⇒図書館として今後も運営していく場合には、エレベーターや自動ドアの設置が必要。補強等を施したあと図書館の閲覧室として使用可能かどうか等の問題も発生してくる。これらの問題について、今後図書館協議会に諮りたい。

○24年度の事業計画の中に電子化対応・電子書籍をどう取り扱うかについて、項目が必要ではないか。

⇒資料の電子化については14年度から進めており、ながおかネットミュージアムで公開している。電子書籍については、全国的に導入している図書館が少ないので今のところ導入に向けた計画はない。

- 積極的に対応するかどうかは別にしてもひとつの柱として取組んで行く必要がある。
- 子ども対象の行事が多い。定年を迎えた男性を対象とした行事を計画してほしい。
- 子どもだけで参加できる行事や参加定員をふやしてほしい。また、参加しやすい時間設定も考えてほしい。
- 長岡は、財産を持っていながら使うのが下手という印象を持っている。図書館も人的文化遺産があると思うので、広く市民に紹介してほしい。
- 活動評価の自己評価というのは図書館の職員がお互いに、または、全職員が全分野について実施したということか。
⇒各担当がそれぞれに実施した。
- アンケート等、外部の人の評価というものはあるか。
⇒1年に1回利用者アンケートを実施し、結果を公表している。行事を実施した際にもアンケートを実施している。
- としょリンピックの実施方法はこれまでとは変わったのか。ひとつの図書館で完結するのではなく複数の図書館を回る企画のほうがよかったように思う。
- 子どもの本を読む会の評価がなかった。長い間続いている読書会なので取り上げてほしかった。中央図書館でも夜の時間帯に読書会があってもよいのではないか。また、いろいろな館で地域に根ざした会を考えてほしい。
- 文書資料室の長岡市史の資料で旧市域の資料をもう1回リサーチしているのはよい。今まで合併地域という部分が強かったが、旧市域で市史をやったときと状況は変化していたり新しいものが出てきたりしていると思うので、旧市域へのリサーチは必要である。地域図書館については、これまでに多様性が出てきて地域での認識が高まってきたとは思いますが、最終年度に総括しながらもう一段レベルを上げるという意識で次年度はやってほしい。
全体の評価は妥当かと思う。活動評価への評価のようなどころがあるのかもしれないが、図書館は無料貸し本屋であってはならないので、評価することは大事だがそれがための実績づくりは本末転倒である。
- 学校で行う読書旬間と図書館がタイアップすれば子どもたちに対してもっとよい読書環境が築けるように思う。
- 書架の大幅な移動については難しいところがある。使いやすさには、入門書から専門書まで一か所にまとまっていることも大事であり、これまでの配置に慣れて利用しやすいことも大事である。このことについて、アンケートをとってみてはいかがか。
- 指定管理者は他市の情報を持っているか。
⇒一緒に排架している図書館のほうが多い。個人的にはずっとここを利用しているので違和感はない。
- 変わるとストレスになる。ワンフロアであり移動に時間がかかるわけではないので、配置を変える必要はない。将来、図書館全体を改築することがあればそのときに考え

ればよい。

○所蔵していることに意味がある資料がある。利用頻度にこだわると手段と目的が混乱する。

○極端に必要性が高くないのであれば現状で問題はない。